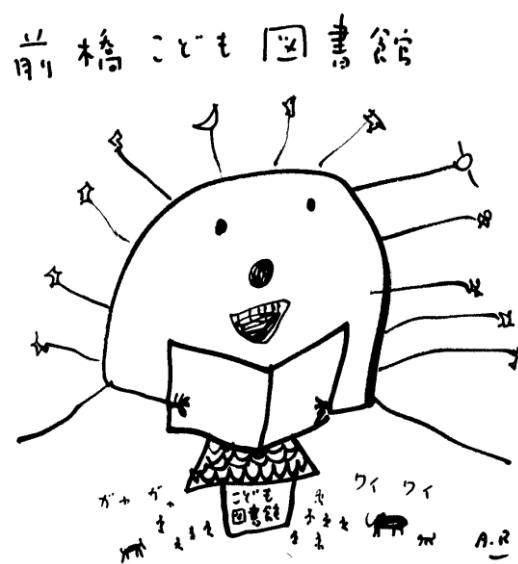


前橋市子ども読書活動推進計画(第三次)

つなげよう 読書のわ

みんなにとどけ 本のちから



前橋市教育委員会

表紙のイラストは、絵本作家の荒井良二氏と市内在住の子どもたちが、こども図書館の壁に壁画を描くワークショップを開催した際、荒井良二氏がこども図書館をイメージしたイラストを色紙に描いてくださったものです。

－ 目 次 －

第1章 はじめに	1
1 計画策定にあたり	
第2章 第二次計画の取組状況	3
1 主な取組と成果	
2 子ども読書の現状	
3 国の動向	
4 今後の課題	
第3章 第三次計画の基本方針	9
1 理念	
2 目的	
3 目標	
4 方針	
5 計画の期間	
6 計画の対象	
第4章 子ども読書活動推進の方策	11
1 家庭・地域における子ども読書活動の推進	
(1) 家庭	
(2) 地域	
2 学校等における子ども読書活動の推進	
(1) 幼稚園・保育所（園）・認定こども園	
(2) 小学校・中学校	
(3) 高等学校	
(4) 特別支援学校	
3 図書館における子ども読書活動の推進	
第5章 関係機関との連携による子ども読書活動の推進	21
資料編	

第1章 はじめに

計画策定にあたり

前橋市子ども読書活動推進計画策定委員会では「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）」（以下「第三次計画」という。）の策定にあたり、改めて前橋市の子どもたちの読書の実態を把握するため、アンケートを実施することとしました。アンケートの結果では、各（学生）年代に渡り本を読む子どもが全国平均よりも多いことがわかりました。本市の策定委員会の委員それぞれの想像を超える内容となり、これまでの取組に納得の得られる結果であると感じました。

この結果は、これまでの第一次計画に続く第二次計画において、市の関係各課、学校、地域、家庭及び関係団体・機関が連携して「本と子どもたちが人でつながる」事業を推進してきた成果であると、大きな自信になりました。同時に、この取組を絶やさず、継続していく必要性を改めて強く認識しました。

一方で、少ないながらも本に触れる事のない子どもたちが存在することも事実です。本計画は、こうした現状を踏まえ、これまで読書に親しむことができなかった子どもたちにも読書活動が広がるよう多角的な視点から事業を推進することを基本に、平成31（2019）年度から平成35（2023）年度までの新たな行動計画とするものです。

さらに、これまで様々な分野で子どもたちの社会教育活動をご支援いただいた関係団体である前橋市読み聞かせグループ連絡協議会や国、県、NPO等子どもたちの活動団体の取組との連携を一層強化することにより、より効果的な推進が図れるとの思いを計画に盛り込んでいます。

そこで、第三次計画では、ひとりでも多くの子どもたちが本に触れ、本に親しむことができるよう、読書をする子どもたちの広がりを一層推進することとし、テーマを「つなげよう 読書のわ みんなにとどけ 本のちから」としました。

本計画が子どもの読書活動推進の道しるべとなるとともに、活動を推進してくださる皆さまの一助となることを願っています。

つなげよう 読書のわ

みんなにとどけ 本のちから

家庭・地域

子どもにとって最も身近な存在である保護者への啓発を行い、地域で活動するボランティア等と協力し、地域の全ての子どもや親子を対象として読書推進の意識を高めるよう取り組みます。



学校・幼稚園等

幼児・児童生徒が自ら本に親しむ習慣を身に付けられるよう、学校・幼稚園・保育所等において読み聞かせなどの取組を、すべての子どもたちに広がるよう充実させます。



図書館

本とふれあう機会の少ない子どもたちにも本を届けられるよう、関係機関と連携し、多彩なイベントやサービスを提供します。



連携力

関係機関

社会全体で子どもの読書活動の推進に取り組めるよう、関係機関が協働してそれぞれの良さを活かした読書活動の推進を図ります。



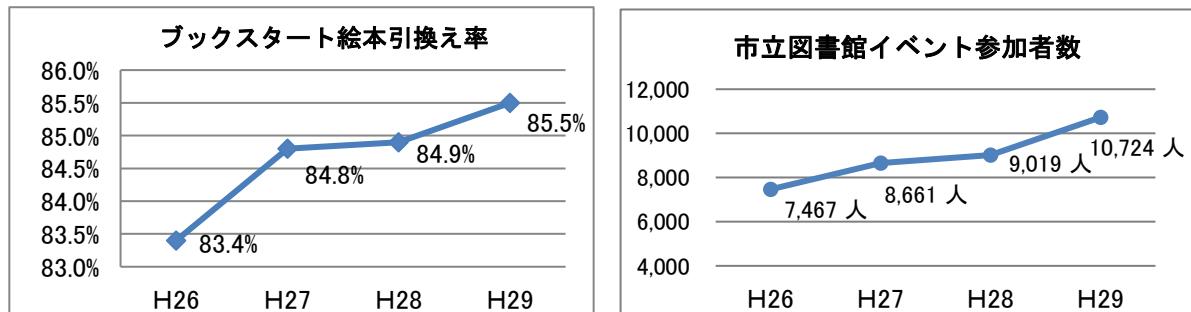
第2章 第二次計画の取組状況

第二次計画は、平成26年度から平成30年度までの5年間、「伝えよう 本のすばらしさを」をテーマに本市をはじめ関係団体・機関等で計画に取り組んでまいりましたが、その主な取組状況や成果と現状及び課題点は次のような状況でした。

1 主な取組と成果

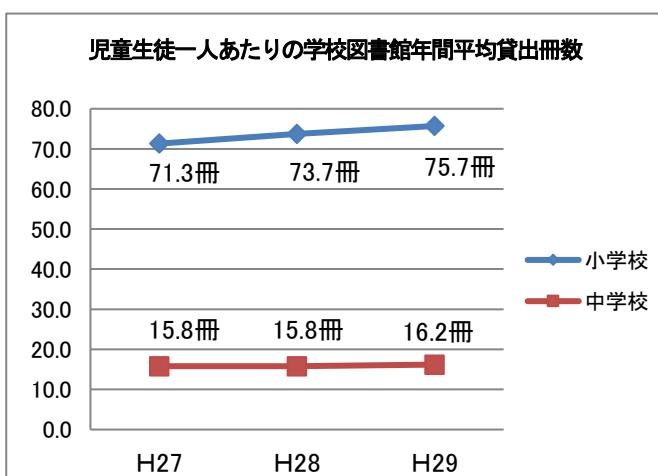
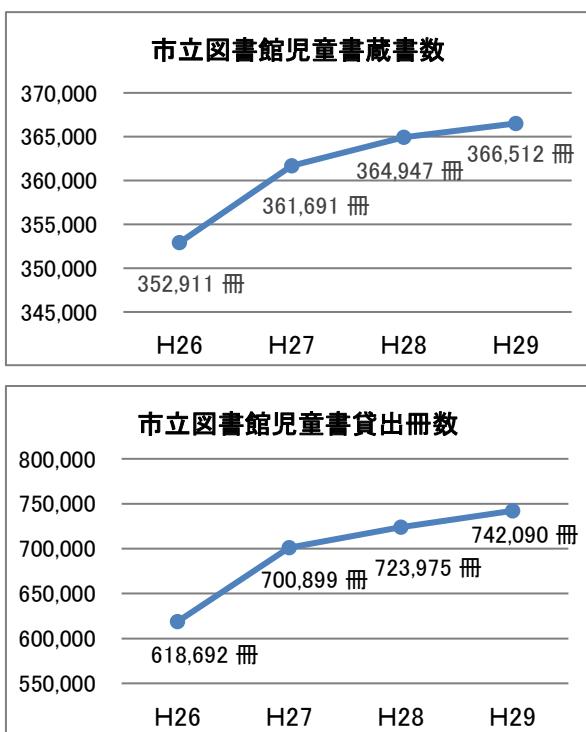
取組の1 子どもが本と出会うために

- ◆ 乳児に対しては、絵本を通して親と子がふれあい、絵本に親しむきっかけとなるよう、赤ちゃんに絵本を1冊プレゼントするブックスタート事業を実施しました。母子手帳交付時などに事業を紹介し、保健推進員やボランティアの協力により絵本の引換え率は、前年度を上回りました。
- ◆ 乳幼児健診や健康教室などにおいて絵本の読み聞かせや紙芝居などを実施しました。また、図書館や公民館等の各施設において、前橋市読み聞かせグループ連絡協議会等と協力し、おはなし会などのイベントを開催し、読み聞かせの大切さ等について普及啓発に努めました。
- ◆ 幼稚園・保育所（園）及び認定こども園において、保育の中で読み聞かせを実施するほか、誕生会や集会行事などで大型絵本、パネルシアター、人形劇なども取り入れ、絵本やおはなしへの興味や関心を高めました。
- ◆ 市内の幼稚園・保育所（園）及び認定こども園が、こども図書館の実施している絵本セット団体貸出を利用し、子どもが施設にはない絵本と出会い、絵本やおはなしへの興味関心を広げるきっかけとしました。また、幼稚園・保育所等では、各部屋に子どもが自由に絵本を手に取れるようなスペースを設け、絵本に親しめる環境づくりを推進しました。
- ◆ 幼稚園等では、保護者向けの読み聞かせ講演会を実施し、保護者に読み聞かせの大切さを伝え興味をもってもらえるよう努めました。さらに、地域の方や保護者から読み聞かせボランティアを募集し、読み聞かせを実施しました。
- ◆ 公民館や図書館において、親子のふれあいや絵本を楽しむ体験を目的に読み聞かせ講座を開催するとともに読み聞かせボランティア養成講座等を開催し、ボランティアの育成や支援を進めました。



取組の2 子どもが主体的に本に親しむために

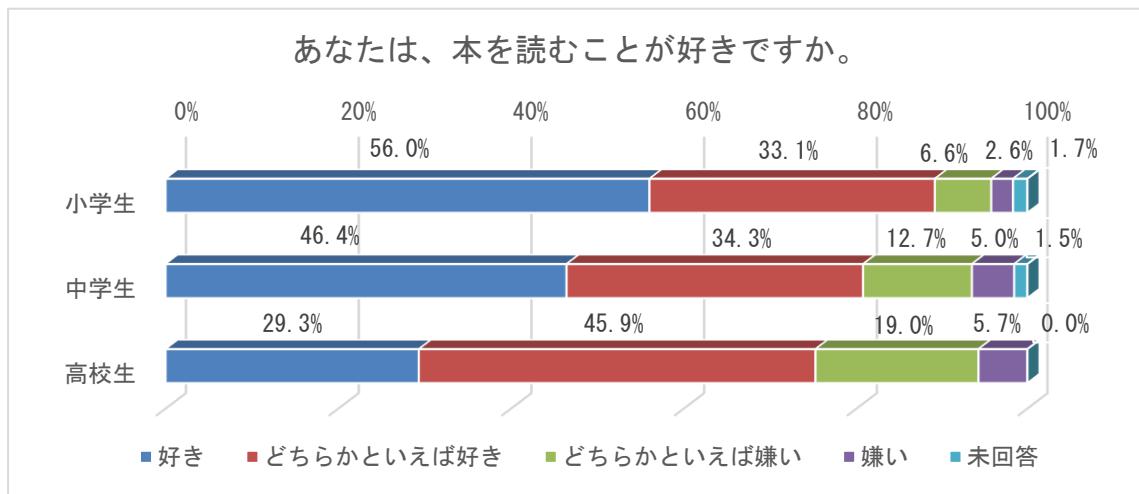
- ◆ 園だよりやクラスだより、図書委員会からのおたよりなどを通し、子どもたちに人気のある絵本や年齢ごと季節ごとにおすすめの本を紹介し、保護者も子どもの興味関心をもった本にふれる機会を持てるようにしました。
- ◆ 小学校1年生、中学校1年生へのブックリストの配布や、おすすめ図書などを市のホームページや図書館だよりに掲載するとともに、新刊本や話題の本などの展示を図書館や各施設の図書室等で行い、読書に対する興味・関心を高めるよう努めました。
- ◆ 図書館や児童文化センターでは、中高生の職場体験の受入れや、図書館キッズ、サマーフレンズ事業等を実施し、本や図書館に親しめ、本を通して異年齢の子どもとふれあう機会を設けました。
- ◆ 小学校1年生に図書館利用カードを配布するとともに「読書通帳」を併せて配布し、図書館の利用促進に努めました。また、児童書等の充実を図り、貸出利用者数及び貸出冊数の増加に努めました。
- ◆ 学校図書館では、学校図書館推薦図書リストの作成や、公立図書館からの団体貸出を利用するなど、調べ学習等の授業での活用を推進しました。
- ◆ 小中学校では、読書クイズや企画展等の読書イベントを開催し、児童生徒の読書への興味関心を高めるとともに、企画コーナーの設置や展示など、各校が工夫して図書館利用の増加に取り組み、児童生徒一人あたりの年間平均貸出冊数が増加しました。
- ◆ 学校図書委員会では図書館だよりを作成し、子どもたち同士でおすすめ本を紹介したり、図書委員による読み聞かせやブックトークなどを企画・実施しました。また、読書感想文・感想画コンクールへの参加を呼びかけるなどして、主体的に本と親しむ読書活動を推進しました。



※平成29年度学校図書館運営に関する調査より

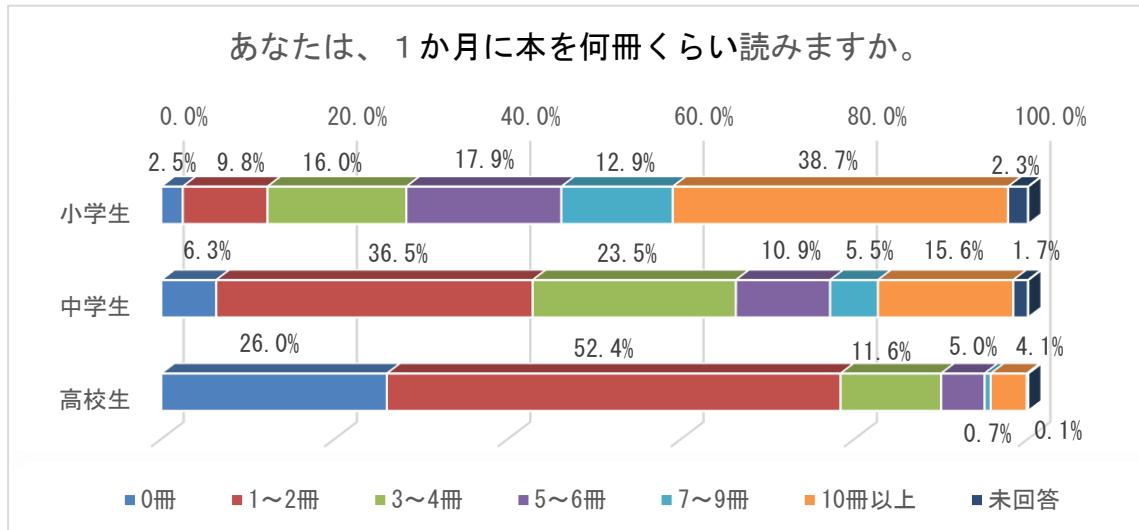
2 子ども読書の現状

平成30年度に前橋市の児童生徒（市立小・中・高校）、保護者（幼稚園・保育所等、小・中学校）、施設（幼稚園・保育所等、市立小・中・高校）を対象に実施した読書活動に関するアンケート調査によると、小学生の89.1%、中学生の80.7%、高校生の75.2%が、読書は「好き」または「どちらかといえば好き」と回答しています。

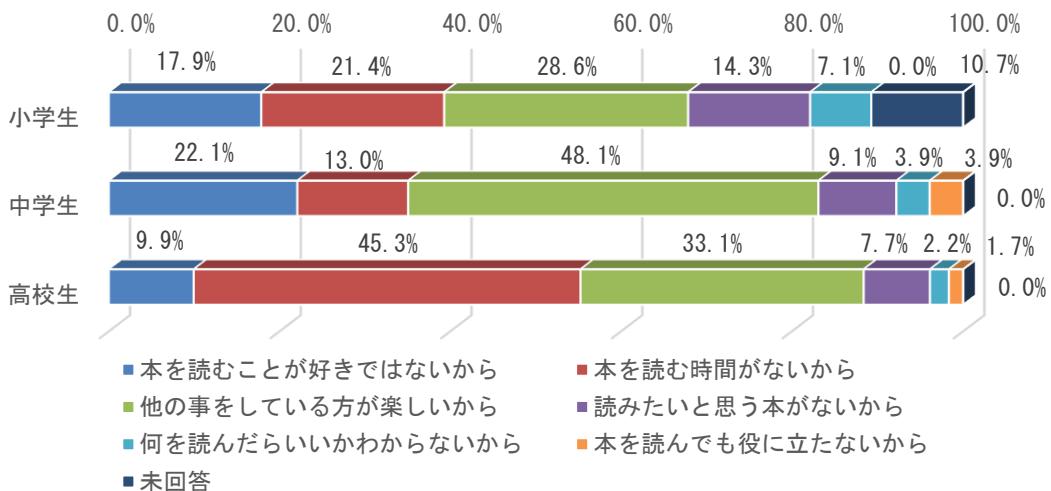


また、1か月に本を1冊以上読む割合は、小学生97.5%、中学生93.7%、高校生74.0%となっており、このうち1か月間に読む冊数の割合が最も高いのは、小学生では10冊以上38.7%、中学生では1～2冊36.5%、高校生では1～2冊52.4%となっています。一方、1か月間に1冊も本を読まなかつた児童生徒（不読者）の割合は、小学生は2.5%、中学生は6.3%、高校生は26.0%となっており、成長に伴い読書冊数が減るとともに不読者の割合も高くなっています。

不読者に本を読まない理由を質問したところ、小・中学生は「他のことをしている方が楽しいから」が最も多く、高校生は「本を読む時間がないから」が最も多く、次いで「他のことをしている方が楽しいから」でした。小・中・高校生とともに、読書以外のことについて時間を費やしており、高校生では、本を読む時間がなくなっている状況がうかがえます。

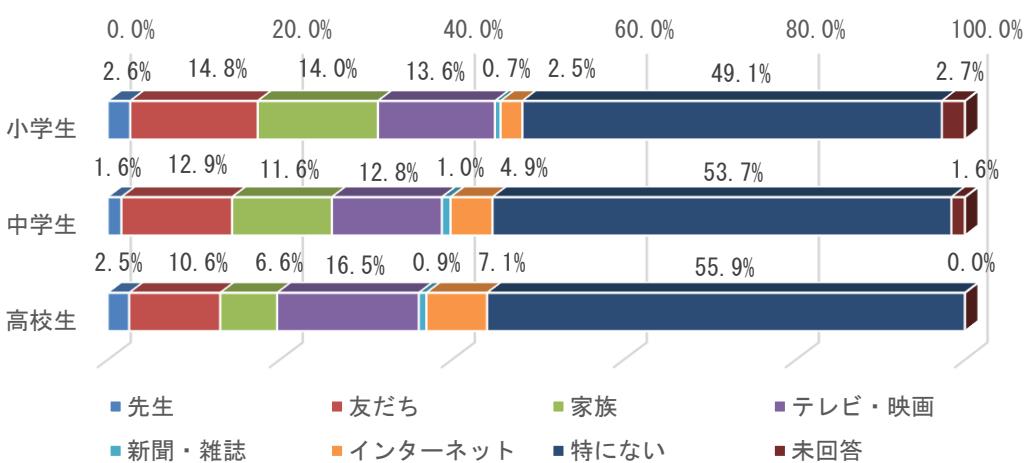


本を読まない理由は何ですか。



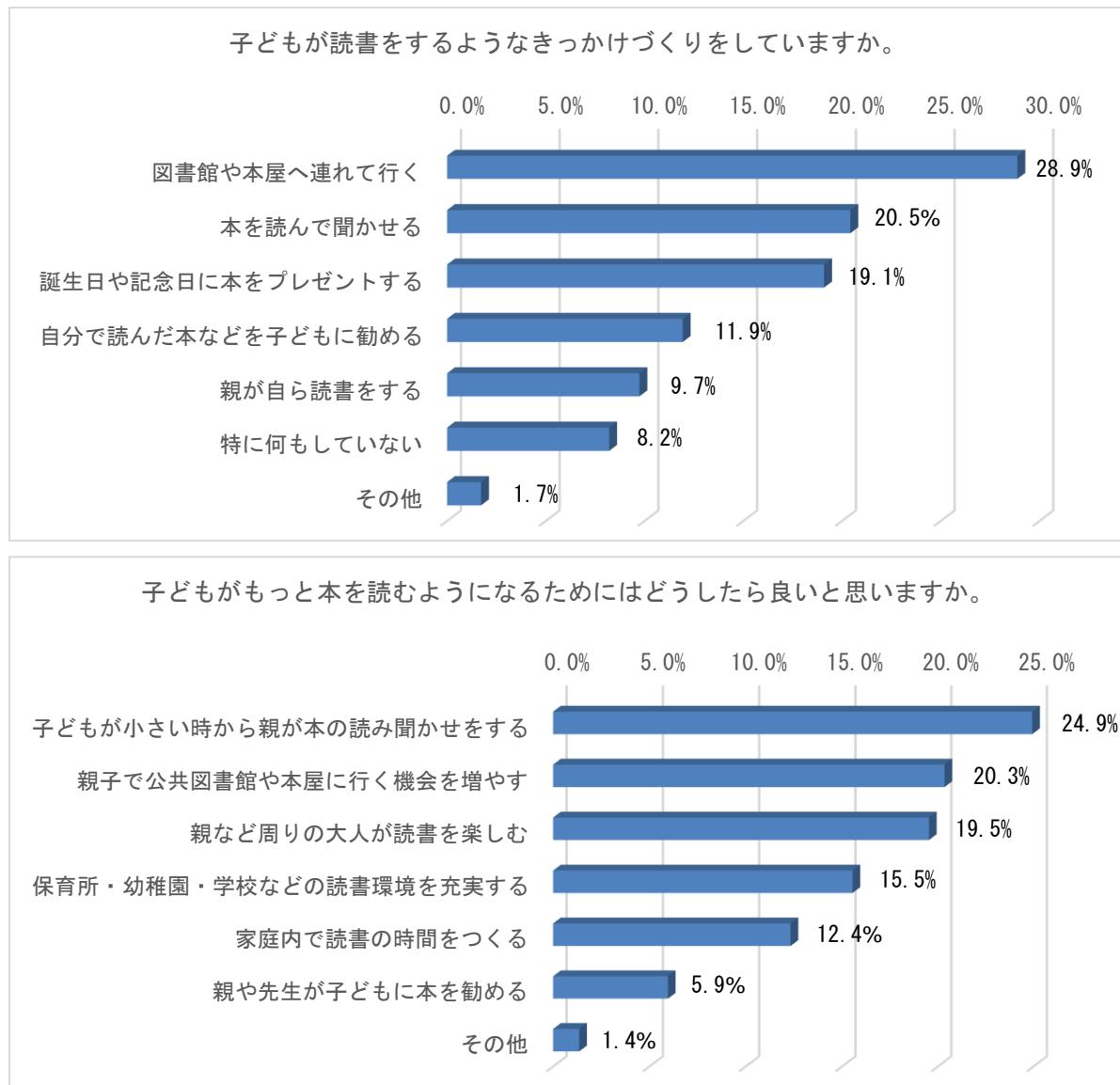
本を読もうと思ったきっかけを質問したところ、約半数が「特にない」と回答している一方で、小・中学生では「友だち」の推薦が最も多く、次いで「家族」や「テレビ・映画」がきっかけとなっています。高校生では「テレビ・映画」が最も多く、次いで「友だち」と回答していることから、友だちや家族の影響を受けていることがうかがえます。

あなたが本を読もうと思ったきっかけは何ですか。



18歳以下の子どもを持つ保護者に、子どもが読書をするようなきっかけづくりをしているかと質問したところ、最も多くの人が「図書館や本屋へ連れて行く」、次いで「本を読んで聞かせる」と回答しており、子どもがもっと本を読むようになるためにはどうしたら良いかとの質問には、「子どもが小さい時から親が本の読み聞かせをする」と回答した人が最も多く、次いで「親子で公共図書館や本屋に行く機会を増やす」でした。

こうした結果から子どもに読書への興味をもってもらうには、保護者によるきっかけづくりが大切であるといえます。



3 国の動向

国は、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、この法律に基づき、平成14年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、平成20年に第二次計画、平成25年に第三次計画、そして平成30年4月には第四次計画が閣議決定されました。第四次計画では、子どものいづれの世代においても第三次計画で目標とした進度での改善は図られていないこと、特に高校生の不読率は依然として高いことを課題とし、読書習慣の形成に向けた発達段階ごとの効果的な取組の推進、友人同士で本を薦め合うなどの読書への関心を高める取組の充実、情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析等の取組を進めていくとしています。

また、平成26年には学校図書館法の一部を改正する法律が成立し、専ら学校図書館の職務に従事する職員として学校司書の法制化がなされるとともに学校司書への研修等の

実施について規定されました。さらに、平成29年に公示された新学習指導要領には言語能力の育成を図るために学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の自主的・自発的な読書活動を充実することが規定され、子どもの読書活動の課題解決に向けた新たな取組が進められています。

4 今後の課題

子どもが本と出会うために、読み聞かせやおはなし会などの様々なイベント等を通してきっかけづくりに取り組んできましたが、保護者や地域の大人が乳幼児期から読書の楽しさを体験することの大切さ、読み聞かせ等の重要性を理解し、読書が好きな子どもがさらに増えるよう、保護者等への啓発活動を推進していく必要があります。

また、中学生・高校生へと年齢が上がるにつれ読書離れの傾向があるため、年齢が上がっても本や読書に興味・関心を持ち続けられるよう、子どもの発達段階に応じた読書習慣の定着に向け更なる読書活動の推進が求められています。子どもが1か月に1冊も読書をしない割合(読書の不読率)は、全国平均(平成29年度)は小学生5.6%、中学生15.0%、高校生50.4%となっています。本市の状況はアンケート結果によれば、小学生2.5%、中学生6.3%、高校生26.0%となっており、全国平均よりもよい結果となっていますが、中高生の不読率はまだ高い傾向にありますので、引き続き、子どもたちへの読書推進を図っていく必要があると考えています。

加えて近年では、スマートフォンやタブレット端末等の急速な普及に伴い子どもの生活環境に変化が見られ、インターネットを利用した調べものや電子書籍の利用など子どもの読書環境にも大きな影響を与えている可能性があります。国の動向をみながら、本市においても今後の課題と捉えていきたいと考えます。

新学習指導要領では、学校図書館は、子どもたちの成長に重要な役割を担っているとされています。各教科・領域での学習活動において学校図書館をより一層活用することにより、子どもたちにとってより身近な存在となることが期待されます。

さらに、子どもの読書活動を効果的に推進していくためには、民間団体をはじめ、学校等の教育機関、公民館等の社会教育施設や国・県等の関係公共団体が別々に読書活動を行うのではなく、連携体制を築き各事業への相互支援や情報提供、各種連携事業のより一層の充実を図る必要があります。

第3章 第三次計画の基本方針

1 理念

読書は、知識を深めるだけでなく、語彙力や言語能力、表現力を高める効果があり、また、集中力、想像力を養い、感受性を豊かにし、相手の気持ちを理解しようとするコミュニケーション能力を高めてくれます。人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないもので、読書は子どもの将来を左右する基礎を築くものの一つであるとも言われています。子どもが読書の楽しさを知り、自主的な読書活動を行うことができるよう積極的に環境を整えていく必要があります。

前橋市子ども読書活動推進計画の第一次計画では、子どもたちが「本との出会いを広げ心豊かに」成長していくことを願い、第二次計画では、子どもが主体的に本に親しむことを目標に、テーマを「伝えよう 本のすばらしさを」として本と子どもたちをつなげる「人の役割を重視して取り組んでまいりました。

第三次計画では、これまで読書に親しむことができなかつた子どもたちにも読書活動が広がるよう「つなげよう 読書のわ みんなにとどけ 本のちから」をテーマとして、子どもの読書活動の更なる推進に取り組みます。

2 目的

前橋市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成21年3月に第一次となる「前橋市子ども読書活動推進計画」を、さらに、その成果等を整理し平成26年11月には第二次計画を策定し、子どもの読書活動推進に取り組んでまいりました。この度、平成30年度をもって第二次計画の計画期間が満了することから、第二次計画の取組・成果と課題及び国の動きを反映させた第三次計画を策定し、本を読む子どもをさらに広げるなど更なる子どもの読書活動の推進を図ります。

3 目標

子どもたちに読書の楽しさや大切さを知ってもらえるよう、また、自ら本に手を伸ばす子どもが育つよう、家庭・地域・学校・図書館・関係機関などが連携して、「読書が好き」な子どもをより広く育成し、1か月に1冊も本を読まない子どもの割合を減らします。

4 方針

本計画は、次の基本方針に基づき推進していきます。

(1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進

子どもたちが日々の暮らしの中で本と出会える環境づくりや、読書の喜びや楽しみを実感できる読み聞かせなど、親子で取り組む読書活動を推進し、読書をする子どもの裾野を広げてまいります。また、これまで進めてきた本と子どもたちをつなげていく「人」とのかかわりを大切に育み、地域の活動と一体となった読書活動を推進します。さらに、これまで本に関心の少なかった家庭や保護者に子どもの読書活動の意義と必要性についての理解を求めるため、周知啓発に努めます。

(2) 学校等における子ども読書活動の推進

幼稚園・保育所等において、子どもたちとその保護者を対象とし、読み聞かせの大切さを伝えて行く取組を広めていきます。

新学習指導要領に基づき、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすため、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図ります。また、読書の習慣を身に付けられるよう、子どもの成長に応じた読書の方法や本を読むことの楽しさを学校図書館から発信します。

(3) 図書館における子ども読書活動の推進

子ども読書活動の拠点として、子どもの発達の状況に応じた蔵書の充実を図るとともに、これまで図書館を利用しなかった人たちに足を運んでもらえるよう、本との出会いや読書の楽しみを知る機会を提供します。さらに、学校や幼稚園・保育所等、ボランティア団体などが利用しやすい環境を整え、団体等による読書活動を支援します。

(4) 関係機関との連携による子ども読書活動の推進

学校、幼稚園・保育所等の教育機関、公民館等の社会教育施設及び国、県等の関係公共団体並びに民間団体等と図書館が相互に連携・協力を図ることで、子どもの読書活動を効果的に推進します。

5 計画の期間

平成31（2019）年度から平成35（2023）年度までの5年間とします。

6 計画の対象

概ね18歳以下の子どもとします。

第4章 子ども読書活動推進の方策

1 家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 家庭

子どもの読書習慣は、日常の家庭生活を通して成長とともに形成されていきます。子どもが読書習慣を身に付けるためには、子どもにとって最も身近な存在である保護者が、子どもの読書に理解と関心を持ち、子どもが本に親しめる環境づくりに積極的に関わることが大切です。そのためには、保護者も読書をすることが重要です。

図書館等では、家庭における読書活動を推進するため、保護者を対象とした読み聞かせ講座の開催や、子どもが好きな本のリストや新刊案内などの情報を発信し、保護者が定期的に読書の時間を設けたり、家族で読書の習慣づけを行ったり、親子で楽しく子どもの読書に関われるよう取組を進めていきます。

事業	事業内容	区分	担当部署
マタニティセミナー・パパママ教室で絵本等の紹介	◆ ブックスタートでお渡しする絵本の紹介、胎教におすすめのCDリストやこども図書館の紹介をします。	新規	子育て支援課
ブックスタート事業の推進	◆ 赤ちゃんに絵本を1冊プレゼントするブックスタート事業を推進していきます。母子手帳交付時にブックスタート事業の紹介を行い、窓口にチラシ等を設置し周知します。関係機関や保健推進員と連携し、家庭を訪問して引換券の配布を行います。 ◆ ボランティアにより絵本の引換え時に読み聞かせ等を実施し、フォローアップ事業としておはなし会を開催します。 ◆ 引換期限1か月となった場合には引換え場所を増やし引換え率の向上に努めます。	拡充	子育て支援課 図書館
親子を対象とした健診等で絵本の紹介	◆ ひよこクラス（生後2～3か月児とその親）で読み聞かせの時間を設け、ブックスタート事業を紹介し引き換えできる絵本の紹介とそのうち1冊の読み聞かせを行います。	継続	子育て支援課
親子を対象とした健診等での読み聞かせ	◆ 1歳6か月児健診、2歳児歯科健診の待合時間で保育士が親子に絵本の読み聞かせや紙芝居等を実施します。 ◆ 5歳児健診で園所訪問時、行動観察後に園児に絵本の読み聞かせを実施します。 ◆ パンダクラス（健康相談に来所した親子）では、親子遊び後に絵本や大型絵本の読み聞かせを実施します。	継続	子育て支援課

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ すこやか健康教室（地域からの要望）では、講座内容により絵本等で読み聞かせを実施します。 ◆ おくちげんき教室（各園所）では、歯科衛生士が紙芝居等で読み聞かせを実施します。 ◆ こども発達支援センターの早期療育支援事業（遊びの教室）では、プログラムにより絵本の読み聞かせをそれぞれ実施します。 		
--	---	--	--



ブックスタート事業



乳幼児健診にて読み聞かせ

（2）地域

各地区的公民館や児童文化センター、児童館など地域の子どもを対象とした施設や歴史資料館等では、子どもの読書活動を推進するために様々な活動を行っています。地域で活動するボランティアグループ等と協力し、地域での子育てに対する意識を高めるような取組を進める中で、子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供します。

事業	事業内容	区分	担当部署
子育て中の親を対象とした読み聞かせ講座	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公民館主催の子育て、親子支援事業において、乳幼児を持つ親に対し、子育てに活かすことができる絵本の選び方や読み聞かせの大切さ、素晴らしさを伝える講座を開催します。また、発達の段階に応じて読書を通じた親子のふれあいをテーマとした内容を取り上げます。 	継続	生涯学習課
子育て支援者を対象とした読み聞かせ講座	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域で子育てをするという意識の向上やボランティア活動の支援を目的に、公民館主催の子育て、親子支援事業において、読み聞かせの方法等を学ぶ講座を開催します。 	継続	生涯学習課
文化祭等のイベントでの読書活動啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各種イベントで絵本の読み聞かせ等を行うことで、親子だけでなく地域の方に対しても子どもの読書活動に理解と関心を持つことを促します。 	継続	生涯学習課

ボランティア団体との連携と活動支援	◆ ボランティア団体の読書関連事業を積極的に活用することにより、活躍の場を提供することで、活動の支援を行います。	継続	児童文化センター 生涯学習課 子育て施設課
子ども読書推進のための地域団体等への周知啓発	◆ 地域団体や自主学習グループ等に対し、研修会や勉強会に読み聞かせ講座を取り入れるよう働きかけ、読み聞かせや子どもの読書活動の大切さを学び、知ってもらうことで、読み聞かせ等が子育て中の親への支援や孫育ての一助となることを理解し、地域での子育てに対する意識を高めます。	継続	生涯学習課
あらゆる機会に読み聞かせを実施	◆ 春まつり、秋まつりなどのイベント時に読み聞かせ、紙芝居、人形劇などを行い、絵本や本にふれあう機会の創出を進めます。 ◆ 日々、年齢に応じた絵本等の紹介などを行い、来館者親子への読書推進を図ります。	継続	児童文化センター 子育て施設課
学生ボランティア・職場体験の受入れ	◆ 中学生・高校生が職場体験等において、停本所の仕事について学ぶ中で、異年齢の子どもに絵本の読み聞かせや紙芝居などを行います。	継続	児童文化センター 子育て施設課
おすすめ本の紹介・展示コーナーの設置	◆ 年齢や発達に応じたおすすめ図書リストの作成、ポップカードなどによる図書の紹介、子育て支援関連図書の紹介などにより、本を選ぶ際の手助けをします。 ◆ 新刊本、作家別の絵本や芥川賞・直木賞などの各種コーナーを設置し、来館者の興味・関心を高めるような工夫をします。 ◆ 科学・文化芸術活動や環境保全活動など、施設と関連した本を充実させるとともに、展示を工夫するなど各種活動との相互作用が図れるようにします。	継続	児童文化センター 子育て施設課



生涯学習フェスティバル おはなし会



児童文化センターにて読み聞かせ

2 学校等における子ども読書活動の推進

(1) 幼稚園・保育所（園）・認定こども園

幼稚園・保育所などに通う子どもたちは、幼少期という心も身体も著しく成長する時期を過ごしています。多くの幼稚園・保育所等では、この時期に絵本や物語に出会い読書の楽しさを知ることができるよう、子どもたちに絵本や物語に親しむ機会を提供しています。

絵本やおはなしの読み聞かせなどの取組をより充実させ一人一人の幼児が興味をもてるようにするとともに、様々な保護者に対しても読み聞かせの楽しさや大切さを伝えていく取組を広めていきます。

事業	事業内容	区分	担当部署
あらゆる機会に読み聞かせを実施	<ul style="list-style-type: none">◆ 毎日の保育の中で読み聞かせを実施するとともに、生活の中で、保護者・保育士などとのふれあいを大切に、幼い時期から絵本に出会えるようにしていきます。◆ 誕生会や集会などで大型絵本や紙芝居、仕掛け絵本などの読み聞かせを行います。	継続	幼児教育センター 子育て施設課
幼稚園教諭、保育士対象の研修会開催	<ul style="list-style-type: none">◆ 研修会に参加し、乳幼児が絵本、劇遊びなどに親しむ環境づくりについて学びます。資質向上を図り、絵本の楽しさをよりよく伝えられるようにしていきます。	継続	子育て施設課
親子読書	<ul style="list-style-type: none">◆ 月間絵本を個人用に定期購読し、園や家庭で活用します。	継続	幼児教育センター
絵本の充実	<ul style="list-style-type: none">◆ 絵本セット団体貸出を利用することやP T A有価物回収の収益などにより学級用の月間絵本を購入し、絵本の充実を図ります。	継続	幼児教育センター 子育て施設課
子どもと本をつなぐ支援とネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none">◆ 保護者向けの読み聞かせ講演会を実施し、併せて読み聞かせボランティアを募集します。◆ ボランティアなどにより、降園前に読み聞かせを実施します。	継続	幼児教育センター
ボランティア団体との連携、読み聞かせ推進	<ul style="list-style-type: none">◆ ボランティア団体の読み聞かせ事業を活用し、絵本に触ることで、保育の充実を図ります。	継続	子育て施設課
こども図書館の活用	<ul style="list-style-type: none">◆ こども図書館を訪問し、興味のある絵本の貸出を利用します。また、関心のある事柄を幼児なりに調べる経験をします。	継続	子育て施設課



保育士研修会



ボランティアによる読み聞かせ

(2) 小学校・中学校

小学校・中学校においては、それぞれの発達の状況に応じて、児童生徒が自ら読書に親しむ読書習慣を身に付けさせることが非常に重要です。そのため、全校一斉読書や読み聞かせなどの取組を引き続き推進していきます。また、児童生徒に読書の楽しさを伝えたり、選書の相談にのったりできるような学校司書等の指導者を配置します。児童生徒が主体的・意欲的に読書活動や学習活動に取り組める環境づくりをさらに進めています。

事業	事業内容	区分	担当部署
あらゆる機会に読み聞かせを実施	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会等の学級活動や教科指導の一環として、担任及び教科担当が読み聞かせを行います。また、全校集会や学年集会等の集会活動でも読み聞かせを行います。 児童生徒が校内や校外で、また、図書委員会の児童生徒が、学校図書館、各教室及び昼の放送にて、読み聞かせを行います。 地域の人や保護者ボランティアを募り、朝読書の時間などにおいて学校で読み聞かせ会を行います。 	継続	学校教育課
児童生徒が本を手に取りなくなるような環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や発達に応じたおすすめ図書リストや教職員が選ぶおすすめ図書リストを作成し、配布します。 授業や朝の会及び図書委員会活動等で、おすすめの本を紹介します。 授業に関連した図書資料（図鑑、同じ著者の作品、シリーズもの等）を教室に展示します。 季節や行事に応じた特設展示コーナーや学習内容及び社会で話題になっていることに関連した展示コーナーを設置します。 	継続	学校教育課
授業における読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 本を読んだ感想を文章に書き、本を読み、思ったことや考えたことを友達と話し合い伝え合う活動を取り入れた学習を行います。 本の紹介箱や帶、ポップ、ポスター等を作り、おすすめの本を紹介する等、本に親しむ機会を増やすような活 	継続	学校教育課

	<p>動を取り入れた学習を行います。 ^{*1} ^{*2} ^{*3} ◆ ブックトークやストーリーテリング、ビブリオバトル等を授業で行います。</p>		
児童生徒が主体的に本と親しむ読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書委員会で、本を使ったクイズ等の企画運営や、図書委員によるブックトークやレファレンスサービスなど、図書委員会の活動を充実させます。 ◆ 読書感想文及び読書感想画コンクール等への参加を呼びかけ、多読賞を表彰することで、児童生徒の読書への関心と意欲を高めます。 	継続	学校教育課
校内における学校図書館の活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業で積極的に学校図書館を活用し、さらに調べ学習セット等を作成し、各学年・学級のニーズに応えます。 ◆ 年度当初に、各学年・学級で学校図書館オリエンテーションを実施し、図書の分類や探し方の学習を行います。 ◆ 図書館業務従事臨時職員が児童生徒とやりとりしながら、本を選ぶ手助けをします。 	拡充	学校教育課
学校図書館の物的・人的整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市内の学校における貸し出し人気作品のリストを毎年更新し、市内の学校で共有します。また、貸し出し人気作品リストを活用し、各教科等のニーズを集約することなどにより、蔵書の充実を図ります。 ◆ 市立・県立図書館の学校支援事業を活用します。 ◆ 学校司書として、学校図書館業務従事臨時職員を配置します。 ◆ 読書活動や教科指導における学校図書館の活用等の教職員研修を開催し、司書教諭や学校司書のスキルアップ及び学校間の連携強化を図ります。 	拡充	学校教育課
保護者に親子読書の良さ・楽しさを伝える啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校便りや図書館便り等の広報を家庭に配布して読書の啓発を行い、さらに読書月間や読書週間などの取組や、おすすめの本等の情報提供をします。 	継続	学校教育課

*1 ブックトーク：あるテーマに沿って複数の本を紹介し、読書への興味を引き出す手法

*2 ストーリーテリング：語り手が物語を覚えて、聞き手に語ること

*3 ビブリオバトル：読んで面白いと思った本を紹介しあい、一番読みたくなつた本を多数決で決める書評合戦



朝読書の時間



学校フェスタ おはなし会

(3) 高等学校

高校生は知的興味に応じ、一層幅広く多様な読書ができるようになりますが、スマートフォンの普及やコミュニケーションツールの多様化等により子どもを取り巻く情報環境が大きな変化を見せており、インターネットを利用した調べものや電子書籍の利用が増える一方で、中学生から高校生へと進むにつれ読書離れの傾向が現れるなど子どもの読書環境は大きく変化しています。これまでの継続的な読書活動に加え、様々なメディアや情報を活用し生徒が多忙の中でも読書に関心を持てるような事業の充実を図ります。

事業	事業内容	区分	担当部署
生徒が主体的に本に親しむ読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書委員会により図書室だよりを毎月発行し、生徒や教員のおすすめ本や新着本の紹介などを行います。 ◆ 年1回発行の図書館報には、生徒や教員による寄稿や生徒が作成したPOPなどを掲載し、生徒の読書への関心が高められるよう努めます。 ◆ 図書委員会交流会に参加し、市内の県立高校等との交流を深め、ビブリオバトルなどの読書活動を推進します。 	継続	学校教育課
読書情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新着本コーナーや話題の本などの特設コーナーを設置し、生徒が興味関心を持ち、新たな本と出会えるような機会を提供します。 	継続	学校教育課
授業における読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業の中で、本を読んだ感想や自分の変化を表現し、友達に伝えるなどの本に親しむ活動を行います。 ◆ 学校図書館を活用した学習指導の充実を図ります。 	継続	学校教育課



学校図書館



新着本コーナー

(4) 特別支援学校

特別支援学校において、特別な支援を必要とする児童生徒が豊かな読書活動を体験できるよう、一人一人のニーズに応じた図書館資料の整備を図るとともに、関係機関と連携し、児童生徒が主体的に本に親しめるような読書活動を推進します。

事業	事業内容	区分	担当部署
あらゆる機会に読み聞かせを実施	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会等の学級活動や教科指導の一環として、教員が隨時読み聞かせを行います。 読み聞かせボランティアなどによるおはなし会の充実を図り、児童生徒が読書の楽しさを味わえるよう努めていきます。 	継続	学校教育課
児童生徒が本を取りたくなるような環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> プレイルームに隣接した図書コーナーを授業で必要に応じて利用したり、児童生徒が休み時間に本を借りたりする場と機会を提供します。 児童生徒の興味関心に合わせて、教室内に本を用意して、児童生徒自ら本を手にとって読めるようにします。 市立図書館の団体貸出等の学校支援事業を活用し、図書の充実を図ります。 	拡充	学校教育課
児童生徒と本をつなぐ支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を対象とした読み聞かせ講座等を開催し、読書の楽しさや大切さを伝える機会とします。 教職員研修会を開催し、読み聞かせの方法など児童生徒が本に親しむ環境づくり等について学び、資質の向上に努めます。 	新規	学校教育課



図書コーナー



ボランティアによるおはなし会

3 図書館における子ども読書活動の推進

図書館は、様々な分野の本を豊富に備えており、子どもが読みたい本を選び、読書の楽しさを知ることができる場所となっています。読書の楽しさを伝えるためのおはなし会への参加ができること、必要な情報を調べること、知識を得ることのできる場所でもあります。また、保護者が子どもに読ませたい本を選択したり、子どもの読書について相談することができる場所です。

そのため、今後も子どもの発達の状況に応じた蔵書の充実を図ります。また、多彩なイベント等を開催し、利用者のニーズに応じた特色あるサービスを提供するとともに、読書離れの傾向にある中学生・高校生等に向けた支援を行います。

さらに、学校、幼稚園、保育所、ボランティア団体等の関係機関との連携を密にし、子どもの読書活動を推進します。

事業	事業内容	区分	担当部署
おはなし会や各種イベントの開催	<ul style="list-style-type: none">◆ おはなし会をはじめとした本や図書館に親しむイベントを開催します。◆ 各図書館で定期的に開催しているおはなし会のほか、「子ども読書の日」や「読書週間」を中心に公共機関や民間団体等と協働し、創意工夫のあるイベントなどを開催します。	継続	図書館
読書情報の提供	<ul style="list-style-type: none">◆ 小学校1年生・中学校1年生にブックリストを配付し、子どもの発達の状況に応じた読書案内を行います。また、推薦図書などのおすすめリストや読み聞かせボランティアのおすすめ本などを作成し、ホームページや図書館だより等で紹介します。◆ 話題の本、季節やイベント等にあわせた展示を行い、子どもたちが新たな本と出会えるような機会を提供します。	継続	図書館
学生ボランティア・職場体験の受け入れ	<ul style="list-style-type: none">◆ 図書館の仕事を体験し、より本や図書館に親しめるよう、図書館キッズ、サマーフレンズ、こども図書館員体験事業等を実施します。◆ 職場体験等においては、書架整理・貸出業務だけではなく、読み聞かせを行い異年齢の子どもとふれあい本のすばらしさを伝える機会とします。	継続	図書館
障害のある子どもへのサービスや多文化共生への取組	<ul style="list-style-type: none">◆ 子ども向け点字図書や録音資料の収集など読書に親しめるようなサービスの充実に努めます。◆ 日本語を母国語としない子どもが読書を楽しめるよう、また日本の子どもが多文化にふれる機会となるよ	継続	図書館

	う、外国語で書かれた絵本や資料を収集し、外国語によるおはなし会を開催します。		
読書環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童書をはじめとした多様な図書資料の充実を図り、読書離れが懸念される中学生・高校生にとって魅力ある図書館づくりに努めます。 小学校1年生へ図書館利用カードを配布するとともに「読書通帳」を併せて配布し、図書館の利用促進に努めます。 	継続	図書館
子どもと本をつなぐ支援とネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティア養成講座等を開催し、子どもたちに読書の楽しさや大切さを伝えていくうえで重要な役割を担っているボランティアを育成・支援します。 読み聞かせボランティアや専門職員を必要とする学校や幼稚園・保育所（園）等への支援を行います。 ボランティア登録制度を導入し、多様なボランティア活動を行うための機会や場所を提供します。 	拡充	図書館
子どもが主役となる事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがやりたいことを自ら企画し実施できるような機会を設け、子ども同士で行う読書活動等を支援します。 他校の生徒たちとの交流や、地域活動に参加できる活動の場として、同年代や異年齢の子どもたちへ読書の推進のきっかけづくりを仕掛ける機会を提供します。 	新規	図書館
子どもたちに寄り添う分館事業	<ul style="list-style-type: none"> 分館において、地域の子育ての一環として、子どもを優先した時間を設けることにより子どもと保護者が一緒に楽しく本に親しむ場所を提供します。 	新規	図書館
学校図書館への支援	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館における図書の選定や特設展示のテーマ設定等について連携・協力し、子どもたちに質の高い読書活動の機会を提供できるよう、協力体制の充実に努めます。 	新規	図書館



図書館サマー・フレンズ活動



図書館利用カード配付式

第5章 関係機関との連携による子ども読書活動の推進

学校、幼稚園・保育所等における子どもの読書活動をさらに支援するため、関係機関との一層の連携に努めます。また、新たに民間企業・団体等との連携により、社会全体で子どもの読書活動の推進に取り組めるようネットワークの充実を図ります。

事業	事業内容	区分	担当部署
学校や幼稚園・保育所（園）等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市内の希望する幼稚園、保育所（園）、認定こども園への絵本セット団体貸出の充実を図ります。 ◆ 小学校・中学校等へ団体貸出を実施し、読書活動や調べ学習への支援を行います。 	継続	図書館 幼児教育センター 子育て施設課 学校教育課
ボランティア団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「前橋市読み聞かせグループ連絡協議会」をはじめとしたボランティア団体等と連携し、おはなし会や人形劇などの読書に親しむためのイベントを充実させるきっかけづくりを行います。 ◆ 図書館や地域で活動している各団体等がスキルアップのため実施している研修会やボランティアの育成を支援します。 	継続	図書館 生涯学習課
公共機関・民間団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 民間団体等と連携し、イベントの開催や各種事業へのボランティアの派遣など、子どもの読書への関心を高める取組を推進していきます。 ◆ 団体貸出の活用や読書関連イベントへの図書資料の貸し出し等により、あらゆるところで読書に親しむ環境づくりに努めます。 ◆ 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供に努め、国・県等の公共団体及びNPO等と連携しながら子どもの読書活動の意義等について、普及・啓発活動に取り組みます。 	継続	図書館
発達段階に応じた読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前橋市読み聞かせグループ連絡協議会等のボランティア団体やNPO教育支援協会北関東等の教育活動を行う団体、さらに国立赤城青少年交流の家等の社会教育施設など複数の団体が連携し、複合的な協力体制を築きながら幼児期から継続した読書活動を推進するとともに、保護者や地域の大人への啓発も含めた読書活動を推進します。 	拡充	図書館

	<p>【幼児期における読書活動】</p> <p>疑似体験により本を身近に感じ、家庭での読み聞かせを推進する活動を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本と体験を結ぶ事業 ・親の読み聞かせ講座 <p>【小学生等における読書活動】</p> <p>幅広いジャンルの本にふれ、本を通して意見や情報を発信し、協働して達成することの大切さを気付かせるような活動を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館レポーター」事業 ・体験活動と本を結ぶ事業 ・ブックトークなど様々な形で本を紹介する事業 ・本づくりを体験する事業 <p>【中学生・高校生における読書活動】</p> <p>読書をする機会の少ない中学生・高校生に、違う視点で興味関心を啓発する活動や事業を通じてコミュニケーション力の育成の機会とする活動に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品や著者を知る事業 ・興味関心のある事をテーマとした本の塾議 		
--	---	--	--



前橋市読み聞かせグループ連絡協議会 事例発表会



NPO教育支援協会北関東主催 図書館レポーター事業



国立赤城青少年交流の家主催 体験の風

資料編

前橋市子ども読書活動に関するアンケート調査結果

1 調査目的

前橋市における子ども読書活動の実態を把握するとともに、読書活動推進の基礎資料とするため。

2 調査時期

平成30年7月～8月

3 調査概要

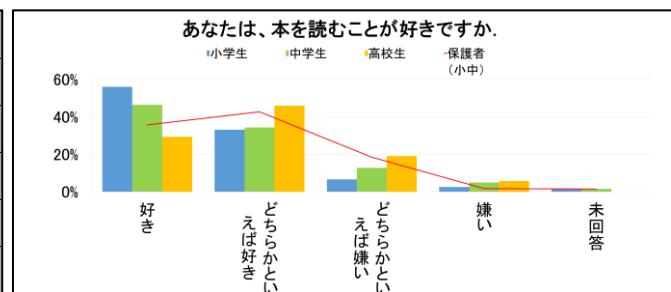
調査対象者	配付数	回答数	備考
小学校 4～6年生	1,162	1,135	市立小学校
中学校 1～3年生	1,293	1,232	市立中学校
高等学校 1～3年生	713	699	市立高等学校
保護者	5,155	3,629	幼稚園・保育所（園）・認定こども園、市立小学校・中学校の保護者
施設	164	125	幼稚園・保育所（園）・認定こども園、小学校・中学校、市立高等学校、特別支援学校

4 調査結果

別紙のとおり

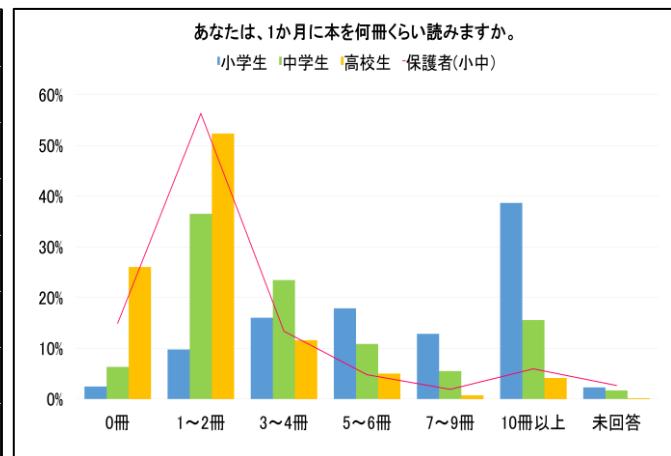
● あなたは、本を読むことが好きですか。

	小学生	中学生	高校生	保護者 (小中)
好き	56.0%	46.4%	29.3%	35.7%
どちらかといえば好き	33.1%	34.3%	45.9%	42.7%
どちらかといえば嫌い	6.6%	12.7%	19.0%	18.4%
嫌い	2.6%	5.0%	5.7%	1.7%
未回答	1.7%	1.5%	0.0%	1.5%



● あなたは、1か月に本を何冊くらい読みますか。

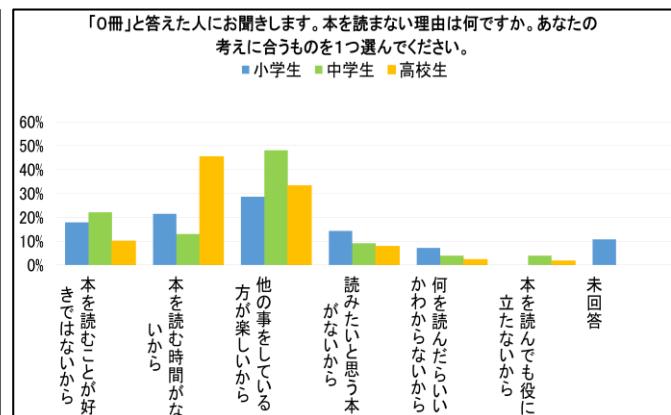
	小学生	中学生	高校生	保護者 (小中)
0冊	2.5%	6.3%	26.0%	14.9%
1~2冊	9.8%	36.5%	52.4%	56.3%
3~4冊	16.0%	23.5%	11.6%	13.4%
5~6冊	17.9%	10.9%	5.0%	4.8%
7~9冊	12.9%	5.5%	0.7%	1.9%
10冊以上	38.7%	15.6%	4.1%	6.0%
未回答	2.3%	1.7%	0.1%	2.7%



● 「0冊」と答えた人にお聞きします。本を読まない理由は何ですか。

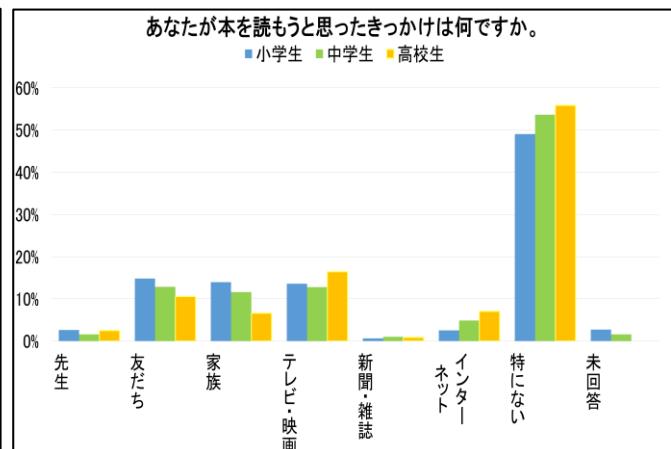
あなたの考えに合うものを1つ選んでください。

	小学生	中学生	高校生
本を読むことが好きではないから	17.9%	22.1%	9.9%
本を読む時間がないから	21.4%	13.0%	45.3%
他の事をしている方が楽しいから	28.6%	48.1%	33.1%
読みたいと思う本がないから	14.3%	9.1%	7.7%
何を読んだらいいかわからないから	7.1%	3.9%	2.2%
本を読んでも役に立たないから	0.0%	3.9%	1.7%
未回答	10.7%	0.0%	0.0%



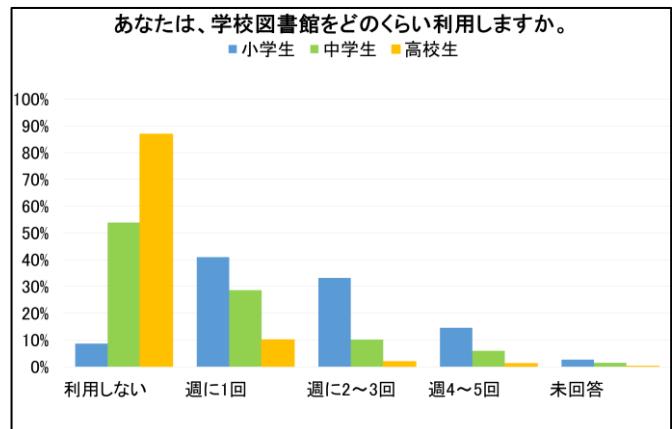
● あなたが本を読もうと思ったきっかけは何ですか。

	小学生	中学生	高校生
先生	2.6%	1.6%	2.5%
友だち	14.8%	12.9%	10.6%
家族	14.0%	11.6%	6.6%
テレビ・映画	13.6%	12.8%	16.5%
新聞・雑誌	0.7%	1.0%	0.9%
インターネット	2.5%	4.9%	7.1%
特にない	49.1%	53.7%	55.9%
未回答	2.7%	1.6%	0.0%



● あなたは、学校図書館をどのくらい利用しますか。

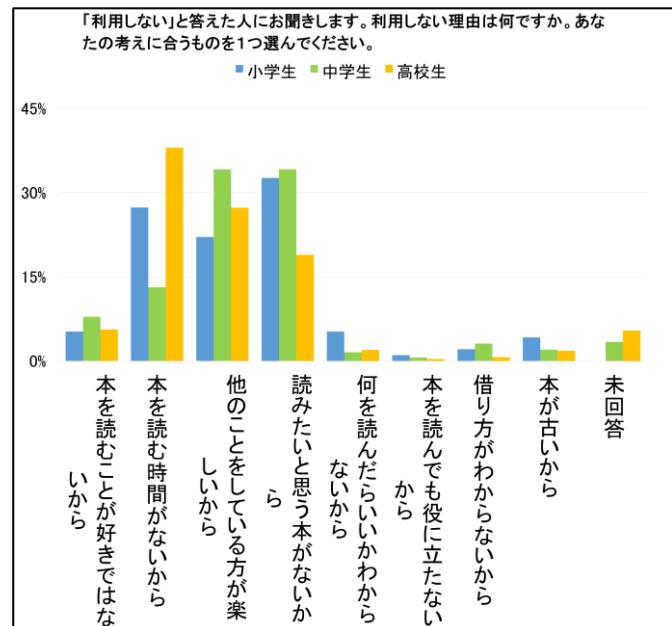
	小学生	中学生	高校生
利用しない	8.6%	53.9%	86.8%
週に1回	41.0%	28.6%	10.0%
週に2~3回	33.2%	10.2%	1.9%
週4~5回	14.6%	5.9%	1.1%
未回答	2.6%	1.5%	0.1%



● 「利用しない」と答えた人にお聞きします。利用しない理由は何ですか。

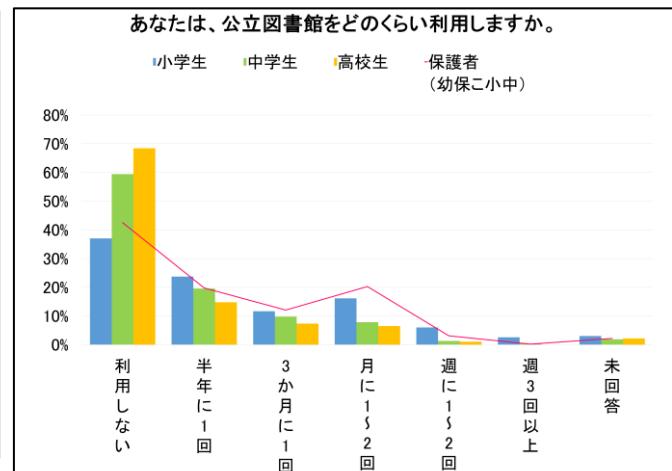
あなたの考えに合うものを1つ選んでください。

	小学生	中学生	高校生
本を読むことが好きではないから	5.3%	7.9%	5.6%
本を読む時間がないから	27.4%	13.1%	38.0%
他のことをしている方が楽しいから	22.1%	34.2%	27.3%
読みたいと思う本がないから	32.6%	34.2%	18.9%
何を読んだらいいかわからないから	5.3%	1.5%	2.0%
本を読んでも役に立たないから	1.1%	0.6%	0.3%
借り方がわからないから	2.1%	3.1%	0.7%
本が古いから	4.2%	2.0%	1.8%
未回答	0.0%	3.4%	5.4%



● あなたは、公立図書館をどのくらい利用しますか。

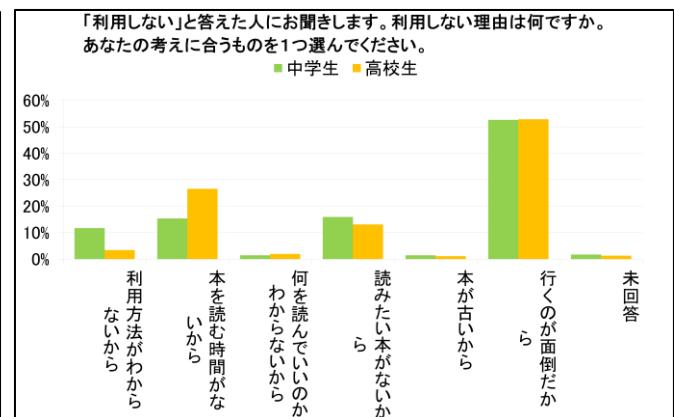
	小学生	中学生	高校生	保護者 (幼保こ小中)
利用しない	37.0%	59.4%	68.4%	42.5%
半年に1回	23.7%	19.5%	14.7%	19.8%
3か月に1回	11.6%	9.8%	7.3%	12.0%
月に1~2回	16.1%	7.8%	6.4%	20.3%
週に1~2回	6.0%	1.3%	1.0%	3.1%
週3回以上	2.6%	0.3%	0.0%	0.2%
未回答	3.0%	1.9%	2.1%	2.2%



●「利用しない」と答えた人にお聞きします。利用しない理由は何ですか。

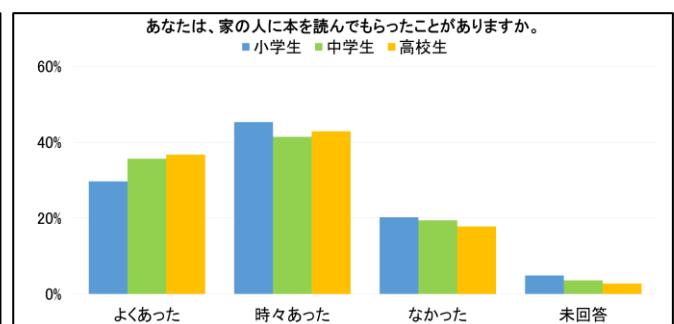
あなたの考えに合うものを1つ選んでください。

	中学生	高校生
利用方法がわからないから	11.7%	3.4%
本を読む時間がないから	15.3%	26.5%
何を読んでいいのかわからないから	1.4%	1.9%
読みたい本がないから	15.9%	13.1%
本が古いから	1.4%	1.1%
行くのが面倒だから	52.6%	52.8%
未回答	1.7%	1.3%



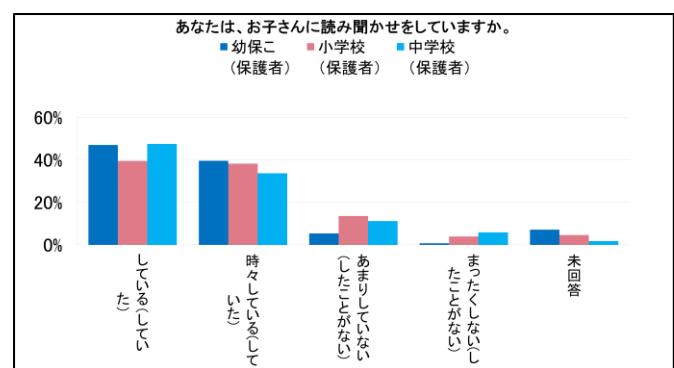
● あなたは、家の人に本を読んでもらったことがありますか。

	小学生	中学生	高校生
よくあつた	29.7%	35.6%	36.7%
時々あつた	45.3%	41.4%	42.8%
なかつた	20.2%	19.4%	17.8%
未回答	4.9%	3.6%	2.7%



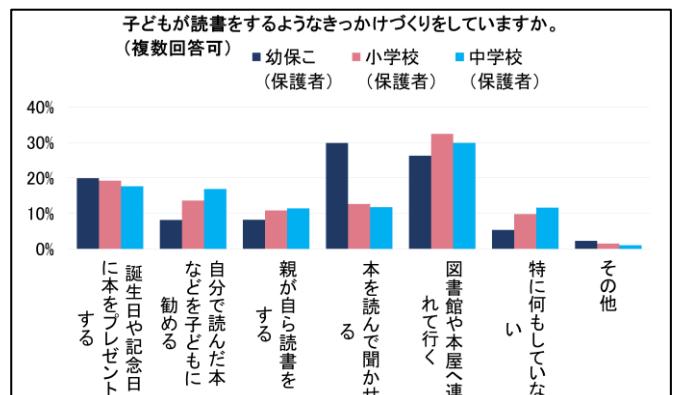
● あなたは、お子さんに読み聞かせをしていますか。

	幼保ご (保護者)	小学校 (保護者)	中学校 (保護者)
している(していた)	47.1%	39.5%	47.5%
時々している(していた)	39.6%	38.2%	33.7%
あまりしていない(したことがない)	5.4%	13.6%	11.2%
まったくしない(したことがない)	0.8%	4.0%	5.9%
未回答	7.2%	4.7%	1.7%



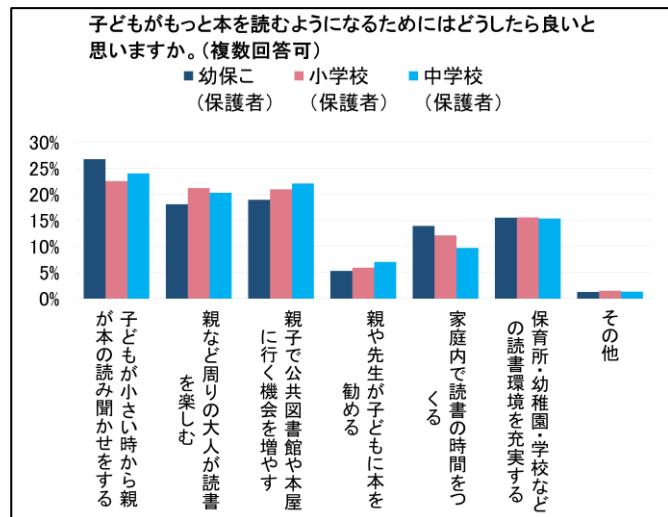
● 子どもが読書をするようなきっかけづくりをしていますか。(複数回答可)

	幼保ご (保護者)	小学校 (保護者)	中学校 (保護者)
誕生日や記念日に本をプレゼントする	19.9%	19.2%	17.6%
自分で読んだ本などを子どもに勧める	8.1%	13.6%	16.8%
親が自ら読書をする	8.2%	10.8%	11.4%
本を読んで聞かせる	29.8%	12.6%	11.7%
図書館や本屋へ連れて行く	26.3%	32.4%	29.8%
特に何もしていない	5.3%	9.8%	11.6%
その他	2.3%	1.5%	1.0%



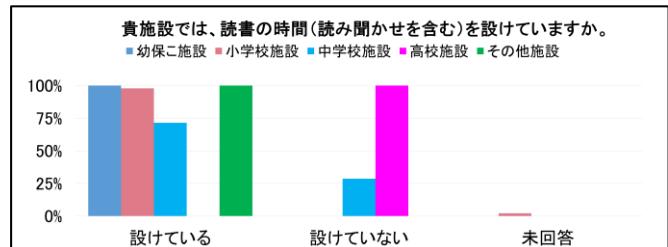
● 子どもがもっと本を読むようになるためにはどうしたら良いと思いますか。(複数回答可)

	幼保こ (保護者)	小学校 (保護者)	中学校 (保護者)
子どもが小さい時から親が本の読み聞かせをする	26.8%	22.6%	24.0%
親など周りの大人が読書を楽しむ	18.1%	21.2%	20.3%
親で公共図書館や本屋に行く機会を増やす	19.0%	21.0%	22.1%
親や先生が子どもに本を勧める	5.3%	5.9%	7.0%
家庭内で読書の時間をつくる	14.0%	12.1%	9.7%
保育所・幼稚園・学校などの読書環境を充実する	15.5%	15.6%	15.4%
その他	1.3%	1.5%	1.3%



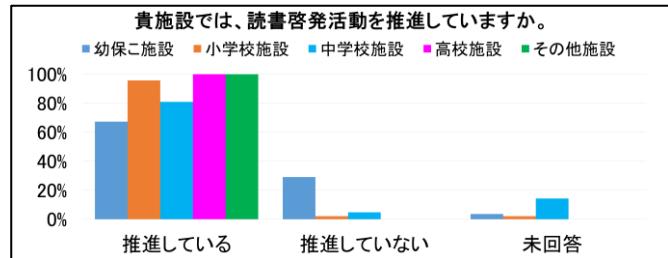
● 貴施設では、読書の時間(読み聞かせを含む)を設けていますか。

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
設けている	100.0%	97.9%	71.4%	0.0%	100.0%
設けていない	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	0.0%
未回答	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%



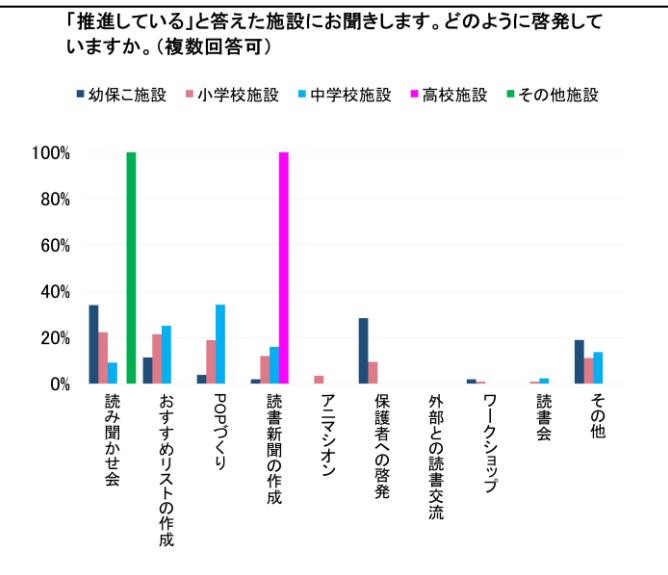
● 貴施設では、読書啓発活動を推進していますか。

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
推進している	67.3%	95.7%	81.0%	100.0%	100.0%
推進していない	29.1%	2.1%	4.8%	0.0%	0.0%
未回答	3.6%	2.1%	14.3%	0.0%	0.0%



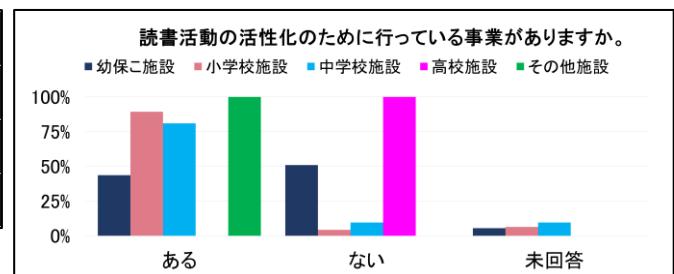
● 「推進している」と答えた施設にお聞きします。どのように啓発していますか。(複数回答可)

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
読み聞かせ会	34.0%	22.2%	9.1%	0.0%	100.0%
おすすめリストの作成	11.3%	21.4%	25.0%	0.0%	0.0%
POPづくり	3.8%	18.8%	34.1%	0.0%	0.0%
読書新聞の作成	1.9%	12.0%	15.9%	100.0%	0.0%
アニメーション	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
保護者への啓発	28.3%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%
外部との読書交流	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ワークショップ	1.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
読書会	0.0%	0.9%	2.3%	0.0%	0.0%
その他	18.9%	11.1%	13.6%	0.0%	0.0%



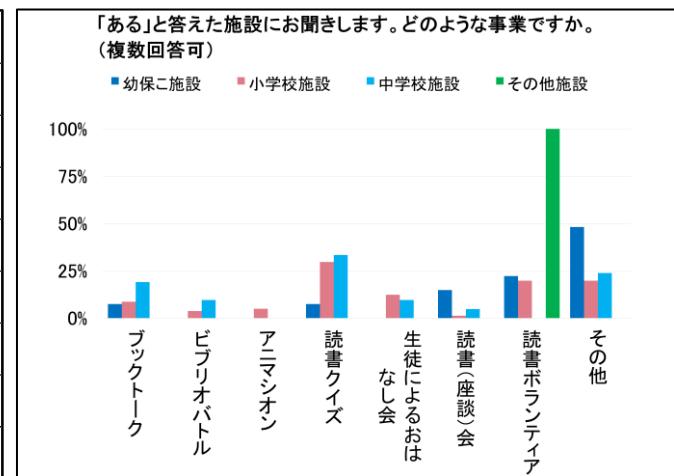
● 読書活動の活性化のために行っている事業がありますか。

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
ある	43.6%	89.4%	81.0%	0.0%	100.0%
ない	50.9%	4.3%	9.5%	100.0%	0.0%
未回答	5.5%	6.4%	9.5%	0.0%	0.0%



● 「ある」と答えた施設にお聞きします。どのような事業ですか。(複数回答可)

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	その他施設
ブックトーク	7.4%	8.6%	19.0%	0.0%
ビブリオバトル	0.0%	3.7%	9.5%	0.0%
アニメーション	0.0%	4.9%	0.0%	0.0%
読書クイズ	7.4%	29.6%	33.3%	0.0%
生徒によるおはなし会	0.0%	12.3%	9.5%	0.0%
読書(座談)会	14.8%	1.2%	4.8%	0.0%
読書ボランティア	22.2%	19.8%	0.0%	100.0%
その他	48.1%	19.8%	23.8%	0.0%



前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）

つなげよう 読書のわ
みんなにとどけ 本のちから

発 行 平成31年3月
前橋市教育委員会事務局 図書館
<https://www.city.maebashi.gunma.jp/library/index.html>
編 集 前橋市子ども読書活動推進計画策定委員会
連絡先 前橋こども図書館
TEL 027-230-8833